



『DUMB TYPE 高谷史郎——自然とテクノロジーのはざま』
ダムタイプ、パフォーマンス作品記録映像

上映スケジュール

2月29日 土 、3月1日 土	21:00 『DUMB TYPE 高谷史郎』 / 22:10 『Pleasure Life』 (終了23:10)
3月2日 月 、3日 火	20:30 『DUMB TYPE 高谷史郎』 / 21:40 『036-Pleasure Life』 (終了23:01)
3月4日 水 、5日 木	20:30 『DUMB TYPE 高谷史郎』 / 21:40 『pH』 (終了22:46)
3月6日 金 、7日 土	20:30 『DUMB TYPE 高谷史郎』 / 21:40 『S/N』 (終了23:06)
3月8日 日 、9日 月	20:30 『DUMB TYPE 高谷史郎』 / 21:40 『OR』 (終了22:46)
3月10日 火 、11日 水	20:30 『DUMB TYPE 高谷史郎』 / 21:40 『memorandum』 (終了22:55)
3月12日 木 、13日 金	20:30 『DUMB TYPE 高谷史郎』 / 21:40 『Voyage』 (終了22:49)

※各回入替制

※古い記録映像のため画質が悪い作品がございます。予めご了承ください。



ダムタイプのメンバー、そしてソロのアーティストとして30年以上にわたり世界的に活躍する高谷史郎、初のドキュメンタリー。



photo: Kazuo Fukunaga

S H I R O
T A K A T A N I

DUMB TYPE 高谷史郎 —— 自然とテクノロジーのはざま
between nature and technology
a film by Giulio Boato



ユーロスペース

渋谷区円山町1-5 KINOHAUS3F
渋谷 Bunkamura 前交差点左折
03-3461-0211
www.eurospace.co.jp

入場料金：一般1,400円 / 大学・専門学校生・会員・シニア1,000円

※『DUMB TYPE 高谷史郎——自然とテクノロジーのはざま』チケット半券提示で
ダムタイプ・パフォーマンス作品記録映像を900円でご覧いただけます。

チケットはユーロスペース劇場窓口またはユーロスペース公式ウェブサイト(eurospace.co.jp)で
上映の3日前から販売。(全席指定)

2020年2月29日|土|—3月13日|金| ユーロスペース

【出演】高谷史郎、坂本龍一、長谷川祐子、サイモン・フィッシャー・ターナー、トマ・ドゥラメル、濱哲史、
リシャール・カステリ、オリヴィエ・バルザリーニ、平井優子、アルフレッド・バーンバウム

監督：ジュリオ・ボアト | 2018年 | フランス | 55分 | 日本語、フランス語、英語 | 英題：Shiro Takatani, between nature and technology | 配給：ユーロスペース © Ideale Audience - 2018



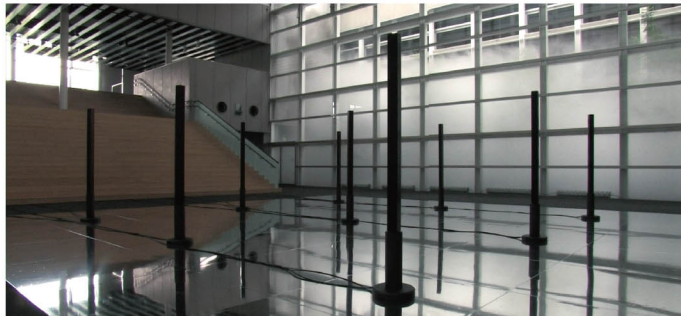
高谷史郎

1963年生まれ。京都市立芸術大学美術学部環境デザイン科卒。1984年にダムタイプの創設メンバーとして活動に参加。1998年からダムタイプの活動と並行して個人でも制作を開始し、坂本龍一や中谷美二子、野村萬斎らアーティストとのコラボレーションも多い。その作品は世界各国で上演・展示されている。

アーティスト・グループ「ダムタイプ」の創設メンバーとして映像、照明、グラフィック・デザイン、舞台装置デザインなどを手がけながら、個人でもインスタレーションやパフォーマンス作品を発表し、坂本龍一とのコラボレーションでも知られるアーティスト高谷史郎。ダムタイプのパフォーマンス「pH」での巨大コピー機のような衝撃的な舞台装置、海洋学者C・サルデが撮影した鮮やかなプランクトンを虹のように色で分解した映像作品など、様々なメディアやテクノロジーを利用して自然や人間を考察する高谷は、日本のみならず世界で高い評価を受け活躍している。「DUMB TYPE 高谷史郎―自然とテクノロジーのはざま」は高谷の活動を追った初のドキュメンタリー映画。ヤン・ファールなど先鋭的な舞台を手がける芸術家のドキュメンタリーで定評のあるイタリア人監督ジュリオ・ポアトが、音楽家・坂本龍一やサイモン・フィッシャー・ターナー、東京都現代美術館「ダムタイプ|アクション+リフレクション」展のキュレーター長谷川祐子らへのインタビュー、そして豊富なパフォーマンスやインスタレーションの映像によって、30年以上に渡って活動を続ける高谷の進化と、その創造の原動力を解き明かす。



DUMB TYPE 高谷史郎 ―― 自然とテクノロジーのはざま



本作に登場する作品

- 【パフォーマンス】
- ・pH(1990) *ダムタイプ*
 - ・S/N(1994) *ダムタイプ*
 - ・OR(1997) *ダムタイプ*
 - ・memorandum(1999) *ダムタイプ*
 - ・Voyage(2002) *ダムタイプ*
 - ・明るい部屋(2008)
 - ・CHROMA(2012)
 - ・ST/LL(2015)

- 【コンサート】
- ・LIFE a ryuichi sakamoto opera(1999) 坂本龍一
 - ・SUPERCODEX(2018) 池田亮司
 - ・dis-play(2018) 坂本龍一との共作

- 【インスタレーション】
- ・LIFE―fluid, invisible, inaudible...(2007) 坂本龍一との共作
 - ・CLOUD FOREST(2010) 中谷美二子との共作
 - ・Toposcan/Ireland(2013)
 - ・LIFE-WELL(2013) 坂本龍一との共作
 - ・WATER STATE 1(2013) 坂本龍一との共作
 - ・ST/LL for the 3D WATER MATRIX(2014)
 - ・MEMORANDUM OR VOYAGE(2014) *ダムタイプ*
 - ・PLANKTON: a drifting world at the origin of life(2016) 坂本龍一、クリスチャン・サルデとの共作
 - ・LONDON FOG #03779(2017) 中谷美二子、坂本龍一との共作
 - ・pH(2018) *ダムタイプ*
 - ・Playback(2018) *ダムタイプ*
 - ・LOVE/SEX/DEATH/MONEY/LIFE(2018) *ダムタイプ*

【DUMB TYPE 高谷史郎―自然とテクノロジーのはざま】
監督・編集・脚本：ジュリオ・ポアト
共同脚本：エンリコ・ピッツィ
製作：レア・バルデ、ビエール・マルタン・ジュバン

2018年 | フランス | 55分 | 日本語、フランス語、英語
ドキュメンタリー | 配給：ユーロスペース
© Ideale Audience – 2018

「DUMB TYPE 高谷史郎―自然とテクノロジーのはざま」劇場公開記念 ダムタイプ パフォーマンス作品記録映像 特別上映

ダムタイプ(Dumb Type)は1984年に京都市立芸術大学の学生を中心に演劇、ダンス、映像、美術、音楽、デザイン、建築など異なる領域の出身者によって結成されたアーティスト・グループ。プロジェクトごとにメンバーや表現方法を変化させる彼らのパフォーマンスは作品ごとに高く評価され、世界各国で上演されてきた。今回は「DUMB TYPE 高谷史郎―自然とテクノロジーのはざま」の公開を記念し、**ダムタイプ**が所有するパフォーマンスの記録映像を特別に上映する。映画館のスクリーンと音響で**ダムタイプ**の傑作パフォーマンスの数々を体験するまたとない機会だ。

※古い記録映像のため画質が悪い作品がございます。予めご了承ください。



上映作品

【036-Pleasure Life】

1987年 | 81分 | カラー | © dumb type
出演：古橋幹二、蔭内美佐子、カティア・サゼヴィッチ、ジェイムス・シンクレア

フリースペースの空間に仮設された階段状の客席から観客は舞台を見おろす。正面の壁には4台のモニターが埋め込まれ、オシログラフなどの信号や、ビデオカメラから挿入されるライブ映像がミックスされ映し出される。フロアは人工芝で区画された36枚のパネルに、天井に設置されたスライド・プロジェクターから写真・文字や記号などが映し出される。これらの情報や刺激に4人の人間が反応・行動し、これらのメディアに働きかけることによって進行するライブ・フォーメーション・ゲーム。

【Pleasure Life】

1988年 | 59分 | カラー | © dumb type
出演：古橋幹二、蔭内美佐子、カティア・サゼヴィッチ、ジェイムス・シンクレア、大内聖子

「プレジャー・ライフ」、それは人間とテクノロジーを巡る環境の物語である。コロニー、仮想の未来都市。高度にシステム化され自動化された快適な生活。舞台は格子状に分割され、コンピュータ制御のさまざまな装置がメッセージやノイズを発し、一見調和的だが時としてシステムが反乱を起こし極度な不調和を引き起こす空間の中で、4人の登場人物が現代の我々の生活を模倣する……。京都で活動を開始した**ダムタイプ**の東京初公演、また初のワールド・ツアーの幕を開ける作品である。

【pH】

1992年 | 66分 | カラー | © WOWOW + dumb type
出演：ピーター・ゴライトリ、砂山典子、田中真由美、蔭内美佐子、古橋幹二

タイトルは化学用語の水素イオン濃度指数に由来していて、二項対立の図式にそって(問い/答え、事実/虚構、公/私、現実/非現実など)13のシーンから構成されている。パフォーマンスのビデオ化にあたり、日本衛星放送WOWOWとのコラボレーションが実現。複数の公演会場で様々な角度から撮影された膨大な映像が古橋幹二によって編集され映像作品に仕上がった。TTVV-Riccione(イタリア)のSole d'Oro(黄金の太陽)賞、IMZダンス・スクリーン92(ドイツ)のベスト・ステージ・レコーディング賞を受賞。

【S/N】

1995-2005年 | 86分 | カラー | © dumb type
出演：石橋健次郎、鎌田いずみ、小山田徹、ピーター・ゴライトリ、砂山典子、高嶺裕、田中真由美、古橋幹二、蔭内美佐子 | 映像編集：高谷史郎 | 翻訳：アルフレッド・バーンバウム

タイトルは「シグナル/ノイズ」を意味し、音響機器等で信号に対するノイズの比率を表す「S/N比」に由来する。ジェンダー、エイズ、セクシュアリティなどを軸とし、人種、国籍、あらゆるマイノリティや性差別など、現代社会が抱える諸問題を正面から捉え、具体的

なアクティビズムまでも巻き込み展開された。この作品で、舞台上で自らゲイでありHIV感染者であることを公表していた古橋幹二は、1995年10月29日エイズによる敗血症のため逝去。古橋の死後も5カ国・6都市で上演され多くの人々に影響を与え続けた。

【OR】

1998年 | 68分 | カラー | © dumb type + Theater Television
出演：石橋健次郎、大内聖子、川口隆夫、砂山典子、田中真由美、前田英一、蔭内美佐子
映像編集：高谷史郎 | 音楽編集：池田亮司

1995年に急逝した古橋幹二が残したコンセプトノートを出発点に制作。それは古橋が大切な人を亡くした体験から「生と死の境界について、どれほど科学はその境界を制御できるか、どれほど我々の精神はその境界を制御できるのか」と書かれていた。舞台は半円筒形の白いスクリーンだけの真っ白な空間。強力なストロボ照明によるホワイトアウトの創出と強烈な音響・映像。「自己と非自己のボーダー」「生と死の間に横たわるグレイゾーン」などの考察が試みられた。

【memorandum】

2000年 | 75分 | カラー | © dumb type
出演：大内聖子、川口隆夫、砂山典子、田中真由美、藤原マナ、前田英一、蔭内美佐子、尾崎暁
映像編集：高谷史郎 | 音楽編集：池田亮司

プロジェクトに関わるメンバーが「記憶」についての考えや意見を交わすことから出発し、そこで発生してくる共鳴や差異を様々なかたちで発展させた作品。舞台全面を覆う半透明のスクリーンは、まるで記憶のように、向こう側にいるパフォーマンスの姿を、スクリーンに近づくとはっきりと、遠ざかるとぼんやりと曖昧なものにする。舞台上を覆う映像と音響の流れの速度と密度が人間の知覚の限界に迫るとき、それは過剰露出されたフィルムのように真っ白な状態に近づいてゆく。あたかも落下しながら静止して見える凍った瀑布のように。

【Voyage】

2004年 | 69分 | カラー | © dumb type
出演：大内聖子、川口隆夫、砂山典子、田中真由美、平井優子、藤原マナ、前田英一、蔭内美佐子
編集：高谷史郎

現代のテクノロジーにおいて私たちはもう道に迷うことはない。GPSやナビゲーション・システム、携帯電話でも現在位置がわかる。しかし、これらのテクノロジーのどれが、私たちの心の居場所を教えてくれるだろうか。舞台上では二人の人物が身体をすり合わせるほど近くにいるのに相手が見えていないかのように互いを探し続けている。スクリーンに映し出された行き先と便名の表示されたボードが次々と出発を知らせるが、フライトは遅延し、やがてキャンセルになる。舞台全面の鏡の床は漆黒の暗闇と無重力を生み出し、時間と空間の様々な概念の「旅」が描かれた。